

# 平成 25 年度第 3 回「墨田区子ども・子育て会議」・ 「墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会」議事要旨

日時：平成 25 年 12 月 2 日（月）午後 6 時 30 分～8 時 40 分

会場：墨田区役所 131 会議室

## 次 第

### 1 開 会

### 2 議 題

議 題	資料 No
(1) 乳幼児ワーキンググループ・学齢ワーキンググループのメンバー構成確定について	資料1
(2) 子ども・子育て会議に係る臨時会・ワーキンググループ等の傍聴及び議事録公開について	資料2
(3) 墨田区子ども・子育て支援ニーズ調査の結果速報について	資料3
(4) 「発達に心配がある児童等の保護者及び高校生へのインタビュー調査」に係る、事前調査シートの確定について	資料4 資料5
(5) シンポジウムの開催について	資料6
(6) すみだ子育て応援サイトの開設について	資料7

### 3 グループワーク

資料8

資料9

### 4 次回開催予定

日 時：平成 26 年 1 月 17 日（金）午後 6 時 30 分～8 時 30 分

会 場：墨田区役所 131 会議室（13 階）

主な議題：シンポジウムの内容等に関する検討ほか

### 5 閉会

## 配布資料

- 資料1 「墨田区子ども・子育て会議」ワーキンググループ別名簿
- 資料2 子ども・子育て会議に係る会合の傍聴・議事録の公開について
- 資料3 墨田区子ども・子育て支援ニーズ調査の結果速報
- 資料4 インタビュー調査に係る事前調査シート（発達に心配がある児童等の保護者用）
- 資料5 インタビュー調査に係る事前調査シート（高校生用）
- 資料6 （仮称）子育て支援に関するシンポジウム実施概要（案）
- 資料7 すみだ子育て応援サイト トップページデザイン（案）
- 資料8 グループワーク概要
- 資料9 グループワーク座席表

## 出席者（敬称略）

### ○委員

大豆生田 啓友（玉川大学教育学部乳幼児発達学科准教授）  
高嶋 景子（田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科准教授）  
野原 健治（興望館館長）  
長田 朋久（横川さくら保育園長）  
西島 由美（にしじま小児科院長）  
鈴木 寛子（あさひ幼稚園副園長）  
服部 榮（社会福祉法人 雲柱社理事長）  
財津 亜紀子（文花子育てひろば施設長）  
内田 淳（青少年委員協議会委員）  
森 八一（青少年育成委員会連絡協議会副会長）  
小菅 崇行（小菅株式会社代表取締役会長）  
佐藤 まり子（ムーミン保育室施設長）  
賀川 祐二（NPO法人 病児保育を作る会代表理事）  
本多 美絵子（両国幼稚園副園長）  
貞松 成（株式会社 global bridge 代表取締役）  
佐藤 摩耶子（公募）  
荘司 美幸（公募）  
多胡 晴子（公募）  
徳野 奈穂子（公募）  
福田 三加代（公募）  
藤方 洋子（八広幼稚園長）  
岡墻 克純（両国小学校長）  
長谷川 晋也（文花中学校長）  
青塚 史子（太平保育園長）

### <欠席委員>

野口 悦子（主任児童委員）  
工藤 和俊（小学校PTA協議会会長）  
早川 和宏（中学校PTA連合会会長）  
金子 里美（N T T労働組合東京総支部執行委員）

### <傍聴>

合計6名（男性2名、女性4名）

### ○部課長出席者

大滝 信一（福祉保健部長）、関口 芳正（子育て支援担当部長）、中橋 猛（保健衛生担当部長）、小倉 孝弘（子育て計画課長）、鈴木 一郎（児童・保育課長）、内田 正代（子育て支援総合センター館長）、荒井 栄（生涯学習課青少年主査【教育委員会事務局次長代理】）

### ○事務局出席者

浦辺、井場、田村、松田、松本

### ○事務局（株ぎょうせい）

黒澤・中村

## 1 開 会

会長	開会する。
事務局	出席状況について、現在の時点では委員 28 名中 23 名が出席し、定足数を満たしているの で会議は有効に成立している。傍聴者、撮影、録音を行うのを了承願いたい。 第 2 回議事録を委員に送付したが、特段修正等はなかった。 前回の会議以降の活動状況について、10 月 28 日(月)午後 6 時半より臨時会を開催し、グル ープワーキングを開催した。11 月 25 日(月)午後 2 時より企画会を開催し、本日の議題、内 容等を検討、同日午後 3 時から臨時会を開催し、インタビュー調査票の内容を検討した。

## 2 議題

### (1) 乳幼児ワーキンググループ・学齢ワーキンググループのメンバー構成確定について

事務局	資料 1 を説明。 前回、案を作成し、その後、委員からの変更希望をうかがい、希望通りにしている。委員 の確認をお願いしたい。
会長	意見はあるか。 <意見なし>

### (2) 子ども・子育て会議に係る臨時会・ワーキンググループ等の傍聴及び議事録公開について

事務局	資料 2 を説明。 資料最下段※にあるように、企画会は事前の運営方針検討なので性格上従来通り、非公開 で傍聴なし、議事録なしにしたい。 臨時会、グループワーキングについてメリット、デメリットを説明。 デメリット④について資料 9 で傍聴席を示す。 傍聴者が増えると保育する場所が増えるが、これまでの 3 回の会議ではそうした事例はな いことを報告する。
会長	企画会でもこの件について話をしたが、企画会としては出来れば公開の方向で提案したい。 理由は地方版子ども・子育て会議の特徴だが、地域のことは地域で決めることがミッシ ョンであり、透明性と公開性を大事にしたい。また、地域によっては無関心な人が多いのが

	<p>実状なので多くの人に関心をもってほしい。</p> <p>デメリット①について、公開によって委員によっては萎縮されるのかどうか分からない。子ども・子育て会議でも公開で話をしている。デメリット②について、期限が短いことは仕方ない。デメリット③について、事務局提案の通りである。デメリット④について定員を設ける。デメリット⑤は制限させていただくのは仕方ない。よって可能ではないかとの見解である。場合によってはそうしない方がよいと決めた場合は、公開するかどうかは話をさせていただく。</p> <p>この件についていかがか。</p> <p>&lt;意見なし&gt;</p> <p>会議を公開にして、たくさんの人と考えていこうとする方向性でよろしいか。</p> <p>&lt;異議なし&gt;</p>
--	---

### (3) 墨田区子ども・子育て支援ニーズ調査の結果速報について

事務局 (株ぎょうせい)	資料 3 について説明
会長	質問はあるか。今後さらに詳しく分析が出るのか。
事務局 (株ぎょうせい)	今回は速報である。
委員	問 26 の一時預かりについて、n が 131 で平均が 16 日、最大が 240 日だが、モード（最頻値）を出した方が実態がわかると思う。他の調査項目も同じで、正規分布でなければ平均値を出しても意味がない。
事務局 (株ぎょうせい)	今後、必要量を算出する時にこの数値が妥当となるかはわからない。実績を踏まえながらこの会議で必要量を協議していくことになるであろう。
委員	家族構成について、小学生では乳幼児に比べ母子家庭がほぼ 2 倍、非共働き家庭が減少しているが、一般的に家族構成はこのように変わるものなのか。
事務局 (株ぎょうせい)	一般的には小学生になると共働きが増え、母子家庭も増加する傾向がみられる。墨田区特有ではないと考える。
委員	学童クラブの満足度は驚くほど高いが、これは前問で学童クラブを利用していると回答した人のみの回答か。
事務局 (株ぎょうせい)	その通りである。概ね満足については「まあ満足」の割合が高い点を補足する。

### (4) 「発達に心配がある児童等の保護者及び高校生へのインタビュー調査」に係る、事前調査シートの確定について

事務局	<p>資料 4 について説明。</p> <p>12 月 13 日（金）に概ね 10～15 名の発達に心配がある児童の保護者へのインタビュー調査を行う。区内のみつばち園、にじの子に通園している子どもの保護者を対象とする。</p> <p>資料は 11 月 25 日の臨時会での議論を反映している。</p> <p>事前調査はインタビューのきっかけづくりであり、事前に配布して当日持参いただき、これをもとに話を展開するものである。</p>
-----	---

	<p>変更点について、問6～8は委員の意見によって加えたもの、問9～13は小さな修正で大幅な変更はない。問14は委員の意見によって内容の変更があり、問15はすべての方にかがうというガイドを追加した。</p> <p>資料5について説明。</p> <p>12月16日(月)、都立両国高校に行き、高校1年生15名程度にインタビュー調査を行う。資料については、委員の指摘により問2の表現を変更、問4は表現が適切でないとの指摘があり変更した。問3～6、問10について委員から意見があったがニーズ調査と同問であるので修正はしていない。問13は同じような設問が2問続いていたので統合し簡素にした。</p>
会長	意見はいかがか。
委員	発達に心配のある子について、みつばち園、にじの子は未就学児のはずだが、就学児とは卒業生なのか。
事務局	現在、通っている児童である。
委員	学齢期の子どもがみつばち園等を利用できるのか。小学校に入学するとみつばち園等には通えないと聞いている。
事務局	3歳から小学3年生までは利用できる。
委員	患者さんから利用したくても出来ないといわれている。
会長	ここで確認するか。
事務局	委員の質問は、にじの子とみつばち園の両方使えないという質問なのか。
委員	そうではない。小学校に入ると、にじの子とみつばち園には通えないと聞いていることについての質問である。
事務局	そういうことはない。
委員	わかった。
会長	この事前調査シートでいきたいがよろしいか。 <異議なし>

#### **(5) シンポジウムの開催について**

事務局	<p>資料6について説明。</p> <p>資料は11月25日の企画会の検討を反映したものである。</p>
会長	<p>前段階の資料は見ていたが、事務局との打ち合わせと違うような気がする。</p> <p>子育てメッセ等、小さな子どもがいる親子が来られるきっかけとなった方がいいかなと思う。</p>
委員	<p>大きな目的は2つある。その目的のためには小さい子どもがいる親子に来てもらい、私たちのことを考えてくれているのだなと思ってもらうことが大切だ。この内容だと弱いと思う。お得な情報が得られたり、得るものがあったり等、楽しい雰囲気が必要だ。考えさせて欲しい。</p>
会長	<p>私の時間はもっと短くてよいと言ったつもりだ。もっと参加しやすいようにした方がいいと思う。ここで述べて申し訳ないが、時間等の大枠は生かすとしても再検討することは可能か。</p>
事務局	<p>示したものは素案である。委員の経験等を生かし、ご意見をいただくことは可能だ。提案をお願いしたい。</p>

会長	<p>まだ時間もあるので、ポイントを押さえながら子育て中の当事者に集まりやすいよう、アイデアを頂きながら作成し直してよろしいか。</p> <p>違う意見があれば提示願いたい。</p> <p>&lt;意見なし&gt;</p> <p>事務局へ、一度検討させていただき、委員にメール等で連絡することも可能か。</p>
事務局	<p>検討させていただき、メール等で意見をいただきたい。いただいた意見をもとに案をつくるので、それについてまた意見をいただきたい。</p> <p>多くの方に来て頂きたいので、昨日実施されたメッセ等を参考にさせていただき、メッセを開きそこに来て頂いた方に一部、二部に参加していただく方法もあるだろう。別なところでメッセ的な形でやりながらシンポジウムをやり、自由に行き来できる方法もあるだろう。部屋や時間の関係もあるが、そうした形式で出来るか検討していきたいのでいろいろな意見をいただきたい。</p>
会長	この議題に関しては再考させていただくこととする。

#### (6) すみだ子育て応援サイトの開設について

事務局	<p>資料7について説明。</p> <p>24年度次世代育成支援行動計画推進会議において、墨田区のホームページが見つらいとの意見があった。ホームページに1つボタンを設け、クリックすると資料7の画面が出てくることになる。今後、中の展開について区で作業を行う。完成は1～2月である。中味が確定し次第、委員には報告する。</p>
会長	質問、要望はあるか。
委員	サイトは区が運営するのか。
事務局	区のホームページであるので、管理や更新は区で行う。
委員	ホームページがわかりづらいから変更するということで、内容が豊富になるということではなく、今までと内容は同じということか。
事務局	民間のシステム会社の協力を得て、見やすい他都市のホームページを参考に不足する情報も確認しながら見やすくする方向で行っているところだ。
委員	昨年度まで次世代育成の応援サイトの作成に関して部会長として関わって来た。この件について敬意を表したい。1～2月に出来るということだが、当時、議論をした中では、例えばイベントカレンダーのボタンについて、どこまでの範囲を反映させていくのか議論したと記憶する。運用のためのガイドラインはできあがっていると解釈してよいか。
事務局	ガイドラインは検討中である。内容は決まっていない。
委員	立ち上がるまでには出来ると考えてよいか。
事務局	区のホームページで区全体のイベントがわかるカレンダーがつくられているが、子育てを選ぶと子育てだけがピックアップされるようになっている。そういうイメージで、すでにある程度出来ている。ただ、各施設からの情報を入れるよう依頼している。1～2月には充実され、子育てのイベントが入っているようになると思う。
委員	小さな子育てサークルが情報を載せて欲しいという依頼があった場合、その線引きはどんなのか。
事務局	基本的には区の事業だと可能だが、民間の事業だとできない可能性もある。詳しくは検討

	中である。
事務局	区の公式ホームページなのでサークルの自主的な活動を載せるわけにいかない。区の施設を使い、区との共催等の形式で行うものは載せることは可能だ。問題は例えば参加費を徴収するとか、講演はあるが酒類が出る等のイベントなどは一定のルール化をしていかないといけない。それぞれ施設を借りたり等、事業の中で行っていくことは載せることは可能だと考える。
委員	わかった。
会長	他の意見はいかがか。
委員	トップページについて、保育園のボタンはあるが幼稚園のボタンがない。
事務局	今はないが、可能である。
委員	私立幼稚園はだめで区立幼稚園は入るのか。 また、子育てがどこまでの年齢層なのか。小学6年生まで入るのか就学前までなのか。
事務局	入れる。これはイメージである。完成はしていない。
委員	基本的なことだが、ホームページで子育て情報に9個のボタンがあり、ここから入ることが考えられるが、すみだいきいき子育てガイドブックというバナーがあり、その下に赤ちゃん休憩スポット等が入っている。この作り方だと利用者はわかりにくい。9個のボタンとバナーをイコールにしないと迷うのかと思う。 また、イラストで、鳥、うさぎと熊と一緒に遊んでいるのだと思うが、バラバラに見える。
会長	これまでの経過がわからないが、意見をいただきながら進めていく方向性を検討できたらいいかなと思う。自治体によっては当事者目線を入れてつくっているものもある。
委員	昨年度いっしょにやっていたが、墨田区は縦割りで、公園を探すのにもなかなか出てこないといったことを解消しようとするのが最初のコンセプトだ。ボタンで自分のやりたいことを選べるのが理想だが、分類の仕方がめやくちゃだと思う。施設と書かれても何の施設かわからない。利用者の意見を聞いてもらった方がいいと思う。
会長	コンセプトはわかった。せっかく開設するのだから当事者目線を生かすといいと思う。一度検討することで今日のところはよろしいか。
事務局	次世代の委員から出た意見であり、関心が高かった方もいた。そういう方に一度意見を聞いてからつくろうとしていた。委員のみなさんの意見もいただければ反映していきたい。 1月中に開設したいので、申し訳ないが12月中に意見をいただきたい。
会長	意見をいただくということでよろしいか。 <異議なし>

### 3 グループワーク

会長	子ども・子育て会議のメンバーに、なるべく声を出してもらいながら決めていきたいのでグループワークを入れられないか事務局に話をした。時間は30分しかないので十分ではないが、意見を出してもらいたい。 資料8、9について、乳幼児と学齢期の2つのグループで今後作業していくが、ニーズ調査の結果も出たし、先日の臨時会でも簡単なワークショップをしているいろいろな声が挙がった。墨田区の子育て環境のよいところは地域の温かさがあり、次世代行動計画で地域の子育て支援が進められたこともあり、かなり充実してきた。
----	--

	<p>一方で、課題1として、例えば昔ながらの地域の良さもあるが、墨田区の地域性の強さがまだ十分に生かされていないのではないかと。逆に地域力が弱まっているところがあるのではないかとということが挙げた。</p> <p>課題の2として、障害のある子ども、ひとり親、貧困など様々な課題をもつ子どもや家庭のことが挙げた。</p> <p>課題の3として、ひろばやセンターなど地域の子育て支援が整ったが、困っている人が相談に行き着くためには、ひろばや相談の場の連携も必要ということが挙げた。</p> <p>これら墨田区のおよさと課題が挙げたが、少しテーマを絞り、乳幼児ワーキングでは「乳幼児の教育・保育に大切なこと」、学齢ワーキングでは「学齢期の教育に大切なこと」と資料にあるが、ここでは放課後児童や子育て環境も含めた「学齢期の子どもを育てる上で大切なこと」とする。4つのグループを事務局が作ってくれたので、これで話を進めたい。時間配分は事務局で説明願いたい。</p>
事務局	<p>時間は残り30分なので時間配分を変える。グループ討議を20分くらい、各班の発表を1～2分くらい、会長の総評を残り時間で行いたい。机の配置は資料9に記載している。</p> <p>&lt;テーブルセッティング&gt;</p>
会長	<p>限られた時間だが、たくさんの意見を出して欲しい。そのため最初の5分間でポストイットに大切なことを何枚でも書き出してほしい。その中で話を進めて欲しい。</p> <p>乳幼児期については今後、保育の需給の問題が出る。保育所や幼稚園、小規模保育等を考えていくことになるので、どのようなことを大事に考えるかを話し合ってもらいたい。</p> <p>グループのとりまとめの人が進行してほしい。3～4点くらいに論点をまとめてもらい最後に発表していただきたい。</p> <p>次回、事務局を含めて、今日出たものを整理させてほしい。</p> <p>例えば、働き方について、どういう点が大事なのかを言ってもらいたい。</p>
Aグループの発表	<p>3点挙げた。前日も出た地域支援の充実のほか、アンケート結果から乳児期に親子がともに過ごすことを保障することが大事であることが今回新たに出た意見だ。しかし労働環境は許されない。病気になったときに休みやすい、乳児期に時短で働けるなど、園も親も行政も声をあげながら変えていけないか。3点目は保育の質の充実で、量や種類もあるが、保育者の専門性の確保、保育の中身の視点が重要という話が出た。</p>
会長	<p>地域の支援は前回も出た話だが、今回はワーク・ライフ・バランスの必要性和保育の質という話が出たことになる。</p>
Bグループの発表	<p>みんなが仲良く、楽しく、しあわせに暮らしていくために、例えば犯罪者にならない子ども、きちんと肯定する子ども、他となかよくできる子ども等、こんな子どもになってほしいという思いが大事だ。そのためには子どもに寄り添っている保護者への支援がとても大事。保護者へのレクチャーや支援が一番大事で、子に寄り添う、親に寄り添う、そして保護者が子どもに寄り添えきれないときは地域や行政が支援することが大事。子どもを囲うように支援していくことが大事だ。また、働く親のワーク・ライフ・バランスを考えなければならぬし、そのために社会の仕組みづくりが大事だ。</p>
会長	<p>乳幼児期の育てられ方について、長期の追跡調査からも後に影響することが言われている。そのために保護者への手厚い支援が必要で、地域のいろいろな人が支えること、ワーク・ライフ・バランスが必要。ニーズ調査の結果から、量的な拡大とワーク・ライフ・ balan</p>

	<p>スも出ている。地域の支援の重要性が子どもの最善の利益に通じることが、A、Bグループから出た。</p>
Cグループの発表	<p>学齢時の健全育成のためには何が必要かを考え、子どもを中心とした若い世代の地域のネットワークを考えた。地域力がダウンしており、その原因は町会等の高齢化が進み、若い人が入って来ないことだ。地域を強くする必要がある。また、地域と個々の家庭の結びつきが重要だと考えた。そのためには学校が地域と家庭を結びつける交流の場として働くことが必要で、地域と学校との関係も強くする必要がある。学校では出来ないことを地域で教え、生きる力を強めることが必要だ。</p> <p>また、行政でやっていなかった新たなきめ細かい子育て支援として、中学生障害児への支援や冒険遊びなどが必要という意見が出た。</p> <p>中学生になっても心の成長期に家庭の中でのしつけや教育等も必要ではないか、この中で地域を愛する力が出るのではないかという意見が出た。</p>
会長	<p>子どもを中心とした地域のネットワークの観点が出た。</p>
Dグループの発表	<p>小学生、中学生は大きいので、しつけ、勉強、体験が大切だという意見にまとめた。勉強の習慣づけと中学生では職業を意識した教育が必要になるだろう。また学齢期には体験が必要だが、区がキャンプをやっていることを知らない人もいる。</p>
会長（総評）	<p>地域の中での体験の位置づけと、そのことを周知することが大切なことも付け加えていただいた。</p> <p>事務局にはこれを書き足してもらい、今回の論点を整理し、次回、乳幼児と学齢期に必要なことを整理して出して欲しい。</p> <p>今後、ニーズ調査の結果を受けながら、保育の需給に関することなどの話に移っていくと思うが、ここで何を大事にするのかを考えていくことになるだろう。</p> <p>子どもの最善の利益のための地域のネットワーク、家庭、働き方を含めたワーク・ライフ・バランスが共通認識ではないか。今後、これを基本にして実際の具体的な作業に入っていくことになる。</p>

#### 4 その他

事務局	<p>第4回は1月17日金曜日午後6時30分から、会場は今回と同じである。</p>
会長	<p>今回は使わなかったが、子ども・子育て会議の資料の中味と今後、実際にどうしていくかが大事であるので踏まえて欲しい。これで終了する。</p>

以上